

論文名 : The relationship among periodontal condition, serum lipid, and electrocardiographic abnormalities in the elderly: A prospective cohort study

(高齢者における歯周状況、血清脂質、および心電図の異常との関連 : 前向きコホート研究) (要約)

新潟大学大学院医歯学総合研究科

氏名 Lisdrianto Hanindriyo

---

本調査では、高齢者を対象とし、歯周病と心電図を含む心・循環器疾患要因、血清中脂質レベルとの関連を評価することを目的としている。

本調査は前向きコホート調査である。新潟市に在住している75歳の自立高齢者107名(男性:57名、女性:50名)を対象とした。対象とした基準は、ベースライン時において少なくとも20本以上現在歯があり、心電図では異常が認められない者、さらにその後5年間、年1回の調査に全て参加した者である。一歯6点計測によりポケットデプス(PD)およびクリニカルアタッチメントレベル(CAL)を測定した。本調査では、上位30%を歯周組織の状態不良と判断した。その結果、PDにおいては1.8mm、CALにおいては2.5mmが基準値となった。心疾患の有無については心電図により評価した。血圧、血清LDLコレステロールレベル、血清HDLコレステロールレベル、および血清総コレステロールレベルを測定した。血清LDLコレステロールレベル140mg/dL未満、血清HDLコレステロールレベル40mg/dL以上、および血清総コレステロールレベル220mg/dL未満を望ましい血清脂質のレベルと判断した。対象者の性別、および喫煙習慣について個別インタビューにより情報を得た。身長と体重を測定しBMIを算出した。

心電図で異常を示している対象者は、そうでない者と比較し統計学的に有意に高いBMIを示した。心電図で異常を示さなかった人では歯周組織の不良な人は29.2%であったのに対し、心電図で異常を示した人では歯周組織の不良な人は60.0%であった。また、5年間で心電図の異常を示した人の割合は、ベースライン時の歯周組織の状態が不良で、かつ血清脂質が望ましくない状況の者で63.6%、歯周組織の状態が不良で、血清脂質が望ましい状態の者で50.0%、歯周組織の状態が良好で血清脂質が望ましい状況の者で21.6%、歯周組織の状態は良好だが、血清脂質が望ましい状況でないもので21.4%であった。

歯周組織の状態が不良な2群は、歯周組織が良好な2群よりも統計学的に有意に心電図での異常を示した人の割合が高かった。本調査の結果は、血清脂質より歯周病のほうが心疾患の発症に影響力が強いことを示唆している。以上、心電図の異常発生と歯周組織の状態とは有意に関連していることが認められた。